

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

## ユーパーツ (埼玉県熊谷市)

ユーパーツ(清水道悦社長、埼玉県熊谷市)は、ハイブリッド車(HV)の駆動用ニッケル水素バッテリーのリビルト(再生)の第一人者で、2012年に再生技術を確立して販売を始めた。現在は、自動車メーカーの電動アシスト自転車、リチウムイオンバッテリーの研究にも取り組んでいる。これまでに培った技術を活用し、地球環境問題の解決につなげる考えだ。

## ターゲット2030 持続可能な未来へ

同社は1975年に設立。自動車リサイクル部品の販売を開始したのは、今から16年に加えてテスター機器も開発、販売するなど、幅広く事業を展開している。

2次電池の基本となる鉛バッテリーの再生に着手した。廃車となる車両に搭載されている鉛バッテリーの中には交換からそれほど時間が経過していないものもあるが、多くは素材資源として回収されたい。鉛バッテリーの再生販売をスタート。高い技術力を買われ

## 国内外の環境問題解決に貢献 ニッケル水素バッテリー再生に注力

ない。バッテリーとしてリサイクルする。リビルト(立ち乗り三輪車)用バッテリーの再生販売なども手がけている。近年は世界各(清水)国の自動車メーカーが電動アシストを進めており、電気自動車(EV)に対する社会的



HVの使用済み車を多数確保して需要に対応



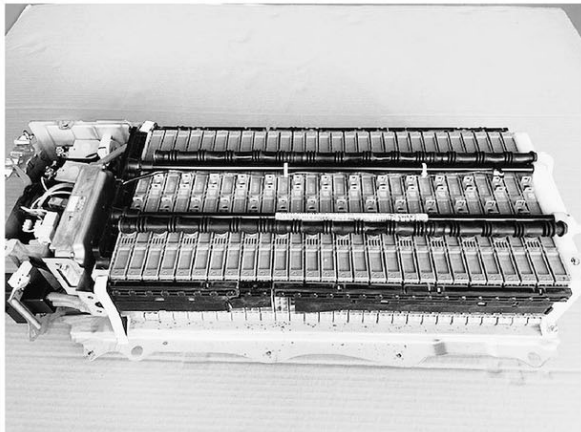
再生前のバッテリーのコマ

## SDGs 視野に中古輸出品の有価回収も

関心も高まりを見せている。ニッケル水素バッテリーの搭載車も増加傾向にあるが、鉛バッテリーとは構造や電圧において異なる点が多い。新品価格は高く、故障の際に交換すれば、大きなコストが発生する。同社はそれまでの研究で培った知見を生かし、12年にはニッケル水素バッテリーのリビルトに成功した。需要は大きく、累計の販売台数は2800個を超えている。高い技術が求められるため、バッテリー1個を生産するのに約1週間は必要とする。工場をフル稼働させているが、需要の多さに供給が追いついていない状況(同)で、リビルト用のコアバッテリーも業者間で取り合いになっているという。

### 高い技術力で自動車メーカーも注目

いたずらに数を追うのではなく、一つひとつの製品の品質向上に力を注ぐ。新品の蓄電容量を100とした場合に容量が80以上となったバッテリーを販売している。19年にはバッテリーユニットの検査装置、同検査方法およびプログラムの特許も取得した。背景には「質の良いリビルトのニッケル水素バッテリーはだめだ」と思われたいようにしたい(同)との強い思いがある。自動車メーカーからの注目は高く、多くの技術担当者が同社を見学に訪れている。また、EVの流通が今後拡大することを見据えてリチウムイオンバッテリーの研究にも取り組んでいる。SDGs(持続可能な開発目標)につながる取り組みは他にもある。清水社長は海外でクルマに搭載されている鉛バッテリーがその後不法投



再生前のニッケル水素バッテリー(上部ケースを開けた状態)

棄され、中に含まれる希硫酸が土壌汚染をもたらしていることを問題視してきた。環境破壊の抑止に少しでも貢献するため、過去にはペルーやインドネシアで廃棄された鉛バッテリーを有価で回収する活動を実施したこともある。これらのバッテリーを再生すれば、再びバッテリーとして販売でき、環境保全につながるからだ。日本から輸出される中古車に占めるHVの割合も上昇傾向にあり、海外のニッケル水素バッテリーの回収の重要性も高まっている。清水社長は「自社の技術を活用して、国内外の環境問題解決に貢献したい」と意気込んでいる。(諸岡 俊彦)